

\*\*\*\*\*

言語研究センター共同研究

## 「外国語学習・教育におけるレアリアの具体的教育内容に関する研究」経過報告

堤 正 典

2014年度にはロシア語の初修レベルでのレアリアの学習内容について検討を続けた。特に、学習語彙との関係に注意を払うべきであることが分かった。初修レベルにおいてでさえ、個々の語の意味用法にレアリアの知識が関わり、それが必要なものも少なくない。もちろん、初修レベルではなるべくそのような説明が不要な語や表現を多くすべきではあるが、そのような語ばかりではテキストなどの教材を構成することはかなり難しい。また、レアリア的知識が必要な語や表現を適宜取り混ぜて学習させることも、ロシア語に慣れさせるには必要なことである。レアリア学習から見て、どのような語や表現を取り上げるべきかをさらに

検討したい。

また、7月13日に、神奈川大学国際交流事業として、ロシアからも研究者を招き、国内の研究者の参加も得て「シンポジウム・ユーラシアを研究する『言語教育におけるレアリア～ロシア話と日本語』」を開催した。言語教育におけるレアリアについての諸相について報告・討論があったが、特にこのシンポジウムによって、日ロ両言語で、一方で基本的な語彙が用いられる表現が他方ではより高いレベルで学習する語彙によってのみ表されていることが多々あり、このような言い回しや発想の違いはレアリアの知識が関わることに改めて注目させられた。